

水と緑の人間都市



**平成28年度
一般会計決算のポイント**

久留米市

～ もくじ ～

1. 平成28年度決算の状況

(1) 平成28年度の一般会計、特別会計決算額	1
-------------------------	---

2. 平成28年度一般会計決算について

(1) 歳入・歳出決算	2
(2) 市の財政を家計簿に置き換えてみると	4

3. 平成28年度の主な事業

4. 久留米市の財政状況について

(1) 預貯金はどれくらいあるの(基金の状況)	9
(2) 借入金はどれくらいあるの(市債の状況)	10
(3) 収入はどうなっているの(歳入の状況)	13
(4) 支出はどうなっているの(歳出の状況)	14
(5) 財政の健康状態をチェックしてみよう	16
(6) これからの久留米市の財政はどうなるの	20

5. 決算に関する資料

この「平成28年度 一般会計決算のポイント」は、平成28年度の久留米市決算の概要と市の財政状況について、正しくご理解いただけるようにと、わかりやすく作成いたしました。

市民生活の向上や地域の浮揚など久留米市の将来を見据えた中長期的な課題の解決に取り組みつつ、今後も引き続き健全な財政運営を行っていくためには、より一層の創意工夫と市民の皆さんのご理解ご協力が必要であると考えております。

この冊子をご覧になり、久留米市の財政状況について知っていただくきっかけとなりましたら幸いです。

1. 平成28年度決算の状況

(1) 平成28年度の一般会計、特別会計決算額

平成28年度決算における一般会計の実質収支は、約8.5億円の黒字、特別会計全体の実質収支は、約14.1億円の黒字となりました。

特別会計のうち、競輪事業特別会計は、平成28年度開催による収益金のうち1.2億円を一般会計に繰り出しました。

(単位:千円)

会計名	歳入	歳出	差引 (形式収支)	翌年度へ 繰り越すべき 財源	再差引 (実質収支)
一般会計	129,983,580	128,618,981	1,364,599	512,267	852,332
特別会計	84,729,079	83,316,121	1,412,958	0	1,412,958
合計	214,712,659	211,935,102	2,777,557	512,267	2,265,290

特別会計毎決算額

(単位:千円)

会計名	歳入	歳出	差引 (形式収支)	翌年度へ 繰り越すべき 財源	再差引 (実質収支)	一般会計から の繰入金	一般会計への 繰出金
国民健康保険事業	41,060,593	40,971,801	88,792	0	88,792	4,281,183	0
競輪事業	14,256,784	13,703,499	553,285	0	553,285	0	120,000
中央卸売市場事業	314,769	304,196	10,573	0	10,573	86,000	0
住宅新築資金等 貸付事業	99,389	83,812	15,577	0	15,577	0	80,000
市営駐車場事業	85,905	77,966	7,939	0	7,939	0	0
介護保険事業	24,264,542	23,795,721	468,821	0	468,821	3,566,604	0
簡易水道事業	13,457	13,457	0	0	0	11,537	0
地方卸売市場事業	21,392	19,354	2,038	0	2,038	2,000	0
農業集落排水事業	236,873	218,039	18,834	0	18,834	125,000	0
特定地域生活排水 処理事業	206,149	194,202	11,947	0	11,947	68,000	0
後期高齢者医療 事業	3,953,009	3,854,770	98,239	0	98,239	1,017,972	0
母子父子寡婦 福祉資金貸付事業	216,217	79,304	136,913	0	136,913	0	0
合計	84,729,079	83,316,121	1,412,958	0	1,412,958	9,158,296	200,000

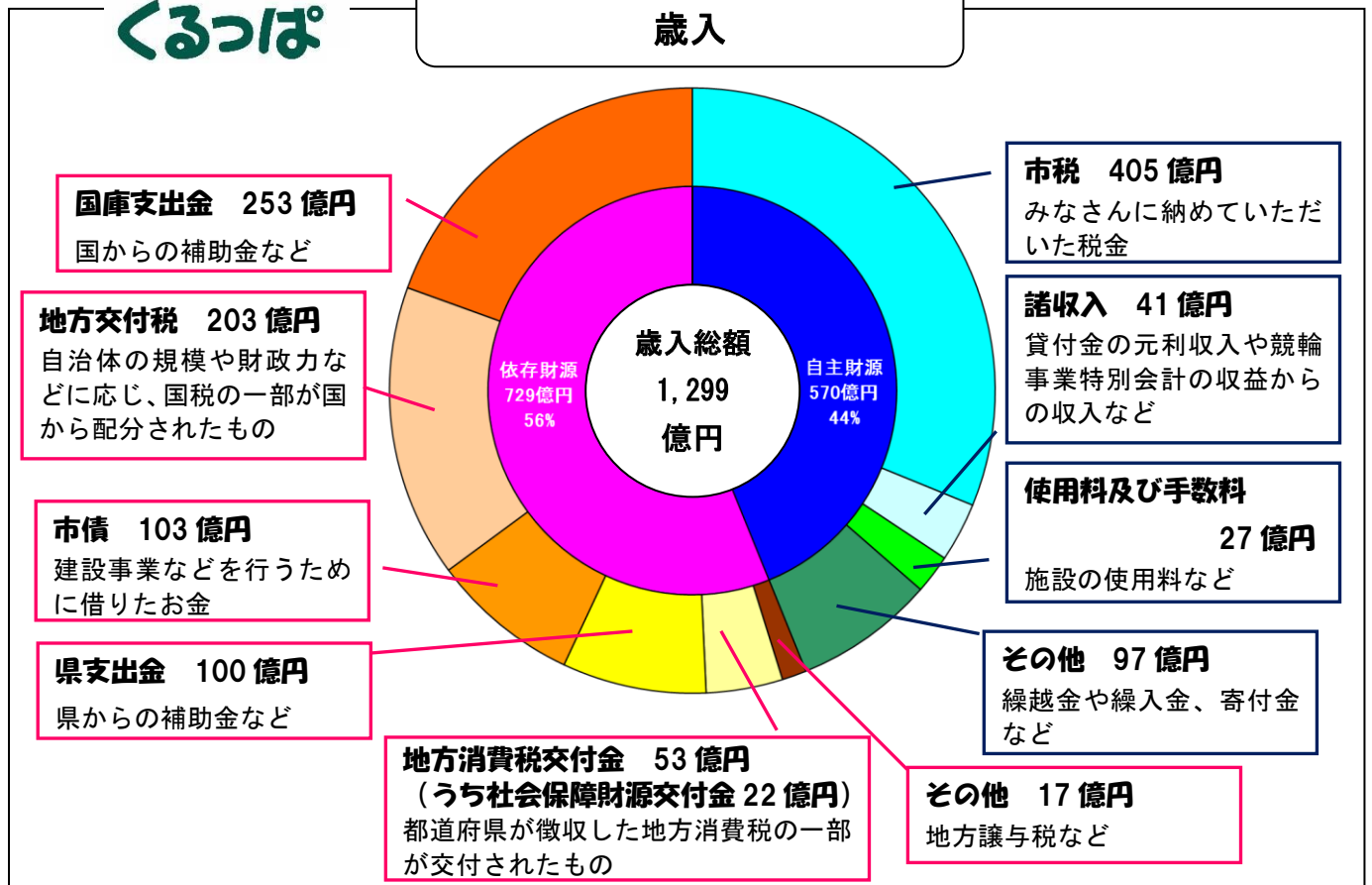
2. 平成28年度一般会計決算について

(1) 歳入・歳出決算



キラリ久留米宣伝課長のくるっぱです。それでは久留米市の平成28年度一般会計の歳入と歳出をしてみるっぱ！
なお、詳細は22ページの『5. 決算に関する資料』も見てね。

平成28年度一般会計 歳入



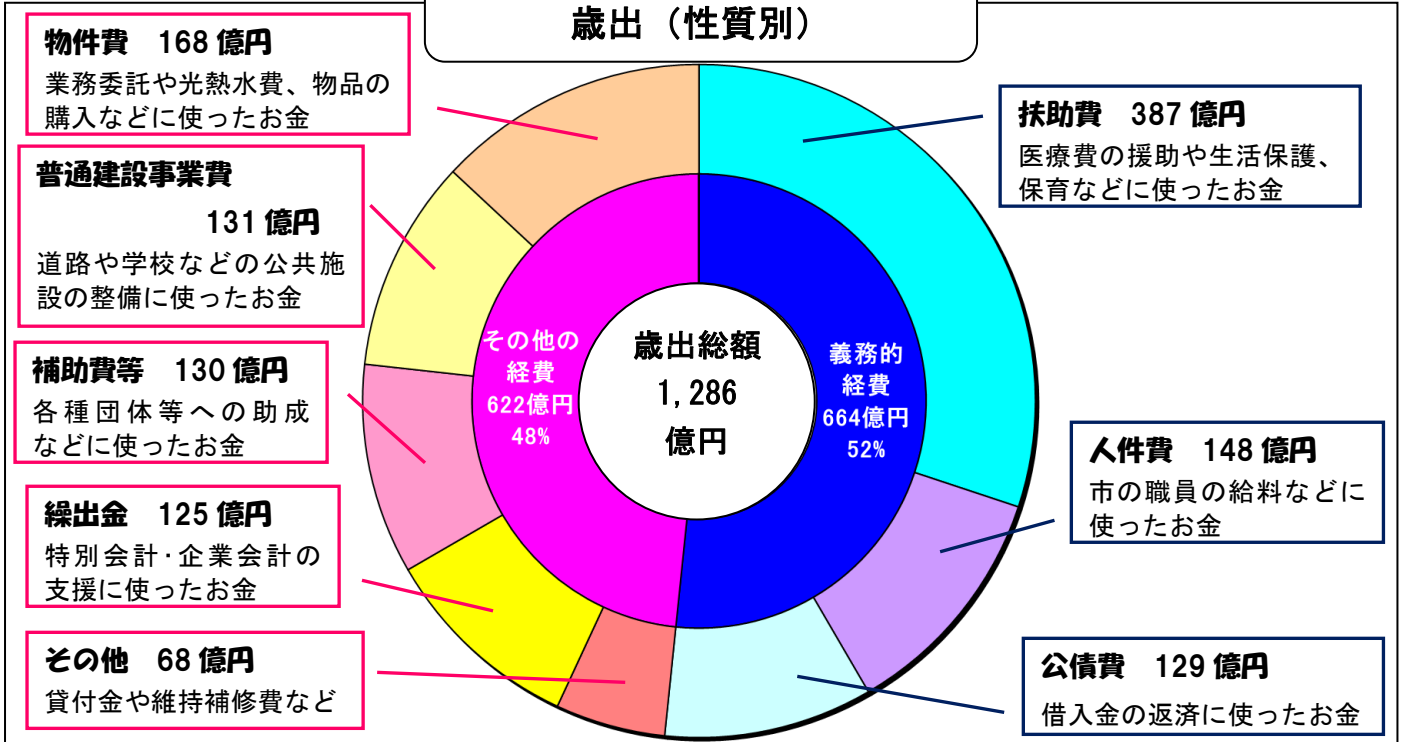
※ 自主財源は、市が自主的に調達することができる収入のことで、依存財源は、国や県から交付または割り当てられる収入のことです。

平成28年度の歳入総額は、約1,299億円(9.9%の減少)でした。
歳入の根幹である市税は、景気の緩やかな回復に伴い個人市民税並びに固定資産税の増収等により対前年度比1.4%の増。

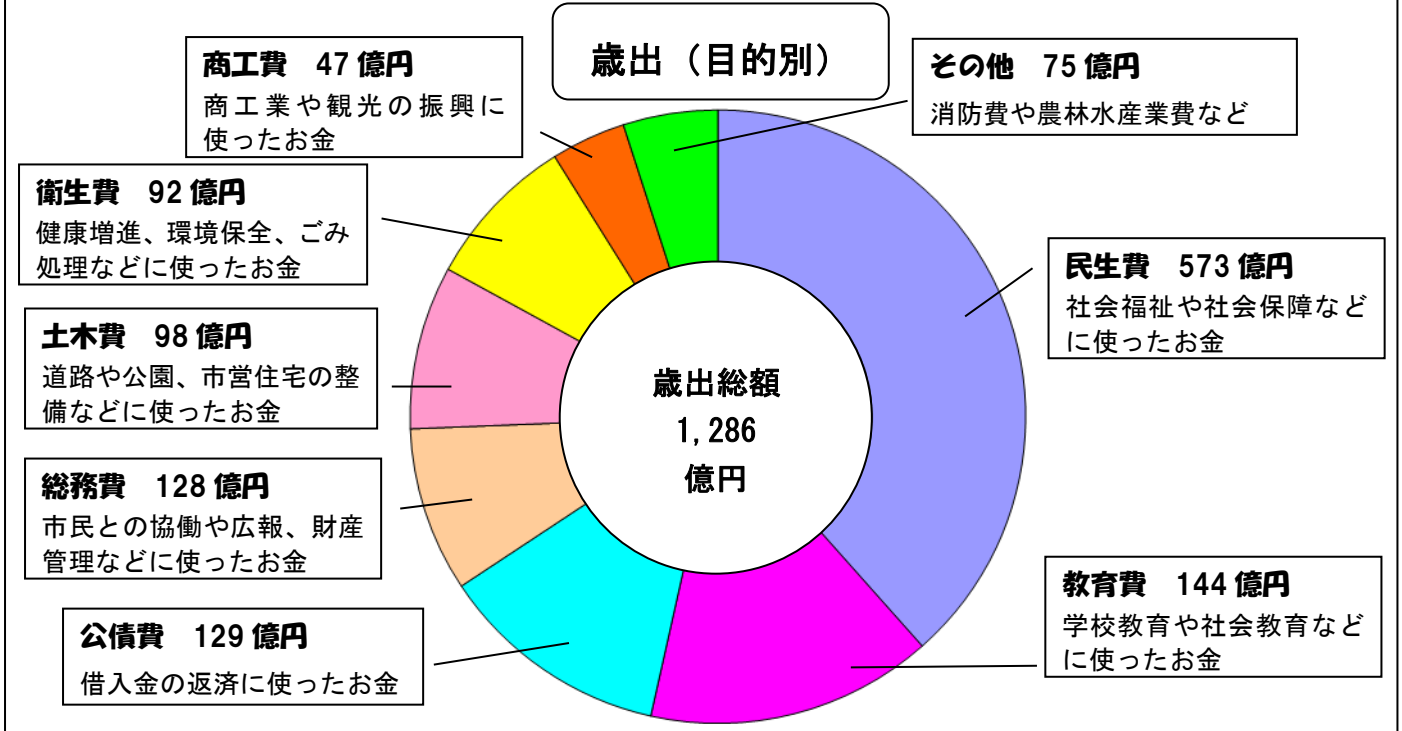
地方交付税は、合併算定替の逡減などにより、対前年度比3.0%の減となりました。

市債は、久留米シティプラザや宮ノ陣クリーンセンターの整備完了等に伴い、発行額が減少したことから、対前年度比56.7%の減となりました。

平成28年度一般会計
歳出（性質別）



歳出（目的別）



※ 歳出（性質別）は、支出を経費の性質により分類したもので、歳出（目的別）は、支出を行政分野の目的により分類したものです。

歳出総額は約1,286億円（9.9%の減少）でした。

義務的経費は、人件費・扶助費・公債費とそれぞれに増加したため、対前年度比4.4%の増となりました。

また普通建設事業費は、久留米シティプラザや宮ノ陣クリーンセンターなど大規模プロジェクトの整備が完了したことなどにより、対前年度比58.7%の減となりました。

(2)市の財政を家計簿に置き換えてみると



平成28年度の一般会計の決算を、年収500万円の家計簿に置き換えてみるとこのようになるばい。

保育料や医療費にたくさんのお金がかかっているね。給料・賃金や各種手当だけでは、生活費(支出)には足りないね。食費や光熱水費を節約しているけど、親からの支援や借入れをしなければならんだね・・・



収入		支出	
・給料・賃金 (市税)	156万円	・食費や光熱水費 (人件費、物件費)	127万円
・各種手当 (地方交付税、交付金)	105万円	・保育料や医療費 (扶助費)	149万円
・親からの支援 (国県支出金)	136万円	・各種の会費や保険料 (補助費等、貸付金)	62万円
・貸家収入 (使用料・手数料)	43万円	・子どもへの仕送り (繰出金)	48万円
・借入金 (市債)	40万円	・ローンの返済 (公債費)	50万円
・預貯金の取崩 (繰入金)	14万円	・家のリフォーム・車の購入 (投資的経費)	50万円
・昨年度の残金 (繰越金)	6万円	・預貯金 (積立金)	9万円
合計	500万円	合計	495万円
		・今年度の残金 (収支差引)	5万円
※借入金残高 (市債現在高)	548万円	※預貯金残高 (基金現在高)	89万円
うち実質的な借入金残高	170万円		



ねえねえ、くるっぱ。
「うち実質的な借入金残高」ってどういうこと？

実質的な借入金残高については、11ページの『(2)借入金はいくらあるの(市債の状況)』の②実質的な市債残高の状況に詳しい説明をしとるけん、そっちを読んでみてね。



3. 平成28年度の主な事業

「協働によるまちづくり」を市政運営の基本的態度として、「日本一住みやすいまち・久留米」を目指し、『人』『安心』『活力』の3つの基本的視点のもと、中期市政運営方針に掲げる3つのまちづくりの視点で、重点施策を積極的に推進しました。

(1) 超高齢社会など時代を見据えた都市の構築

乳幼児等医療費助成（子ども医療費助成）

決算額：852,955千円

平成28年10月診療分より、通院にかかる医療費の支給対象者を「小学校3年生まで」から「中学校3年生まで」に拡大し、乳幼児等医療費助成制度から子ども医療費助成制度に名称変更しました。

保育所給食充実事業

決算額：43,855千円

平成28年6月から市内の保育園などで、3歳以上の子どもたちにも主食を提供する完全給食を始めました。園児たちは、炊きたての温かいご飯を食べられるようになりました。



学童保育所整備事業

決算額：188,647千円

利用児童の増加に伴う受け入れ態勢を確保し、保育環境の向上を図るため、学童保育所の整備を進めました。

また、保護者のニーズに応えるため、新たに23校区で高学年の児童の受け入れを開始しました。



これらの事業の他、コミュニティサイクルの運営、見守りネットワークの推進、民間保育所等施設整備費助成、小・中学校英語教育の充実、移住・定住の促進などに取り組みました。

(2) 幸せを実感できる市民生活の実現

障害者基幹相談支援センター運営事業

決算額：48,402千円

平成28年7月から、地域における障害者の相談支援の拠点として、障害者基幹相談支援センターを設置し、あらゆる障害に対する総合的な相談業務や相談支援事業所に対する指導・助言等を行い、障害者福祉の充実・強化を図りました。

美術館事業

決算額：426,280千円

石橋美術館の歴史と伝統を受け継ぎ、久留米市美術館が、石橋正二郎記念館と共に開館しました。魅力ある展覧会の開催や、美術品の収集等に取り組みました。



宮ノ陣クリーンセンター管理運営事業

決算額：305,761千円

宮ノ陣クリーンセンターの稼働により、上津クリーンセンターと2ヶ所での長期的に安全で安定したごみ処理体制（焼却灰〔主灰〕セメント化含む）が整いました。



これらの事業の他、人権・同和教育及び啓発の推進、女性の活躍促進、生活困窮者の自立支援、セーフコミュニティの推進、(仮称)久留米スポーツセンター体育館の整備などに取り組みました。

(3) 住みたいと思える、住み続けられる地域社会の形成

青年・女性農業者育成事業

決算額：83,316千円

次世代の担い手育成支援として、青年就農給付金による新規就農の促進や、認定農業者等が新規就農希望者を研修生として受け入れ、農業の知識や技術の習得を支援する「農業実践研修事業」に新たに取り組みました。



久留米シティプラザ関連事業

決算額：620,566千円

開館初年度である平成28年度は、開館記念事業や年間を通したオープニングシリーズとして魅力ある自主事業や市民公募企画事業等を実施しました。

文化芸術に触れる場として、また市民の皆さんの交流の拠点として、新たな歴史がはじまりました。



アンテナショップ運営事業

決算額：56,178千円

圏域の魅力発信、交流人口や移住人口の拡大、地域経済の活性化に繋げる情報発信拠点となる「アンテナショップ」の開設準備を進めました。

※「アンテナショップ」は、平成29年7月22日『福岡久留米館』として開店しました。



これらの事業の他、MICE誘致の推進、戦略的な企業誘致の推進、インバウンドの推進、地域密着観光の推進、積極的なくるめの魅力発信、連携中枢都市圏事業の推進などに取り組みました。

その他の取り組み

ふるさと・久留米応援事業

寄付受納額：2,014,300千円 返礼品決算額：851,722千円

「ふるさとを応援したい」「ふるさとに貢献したい」という皆さまの思いをまちづくりに活かすふるさと納税制度を通じ、全国の皆さまから心温まるご寄付をいただきました。

平成28年度は、約20億円の寄付受納額となっております。

いただいた寄付金は、久留米市のまちづくりに有効に活用させていただいています。

《寄付金を活用した主な事業》

健康増進事業【健診】
母子保健事業【健診】
保育所給食充実事業
美術館事業
久留米シティプラザ関連事業
学童保育所整備事業
学校周辺安全対策事業
小・中学校英語教育充実事業



通学路や学校周辺における生活道路にカラー舗装やゾーン30などの交通安全対策を実施(学校周辺安全対策事業)

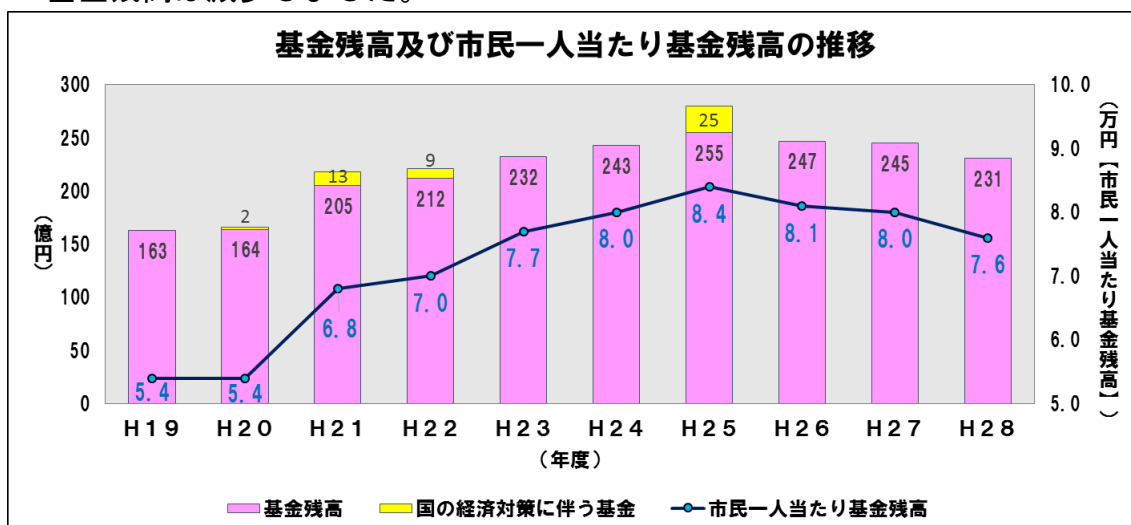
4. 久留米市の財政状況について

(1) 預貯金はどれくらいあるの(基金の状況)

① 基金残高の状況

平成28年度末の基金残高は約231億円で、残高を単純に人口で割った市民一人当たりの残高は、約7.6万円となります。

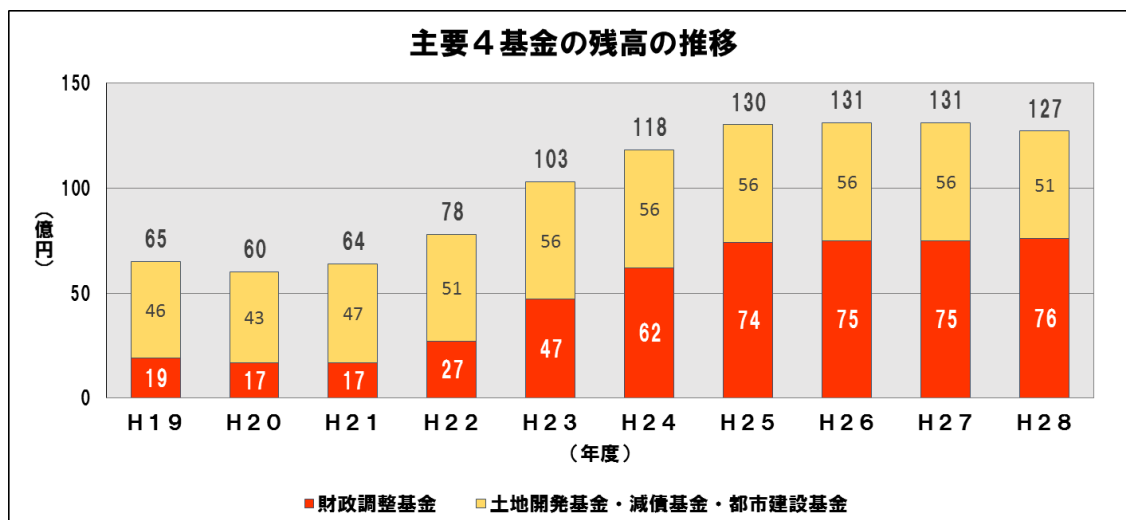
これまで決算の状況を踏まえ、可能な限り財政調整基金などへの積立ても行ってきましたが、平成28年度は減債基金の取崩しを行ったこともあり、基金残高は減少しました。



② 主要4基金の残高の状況

久留米市では、不測の財源不足に対応するための重要な基金として、財政調整基金、土地開発基金、減債基金、都市建設基金を主要4基金と位置づけています。

平成28年度は、公債費の将来負担軽減を図るため、地方債の繰上償還を行い、その財源として減債基金を5億円取り崩しました。その結果、平成28年度末の主要4基金の残高は、約127億円となりました。



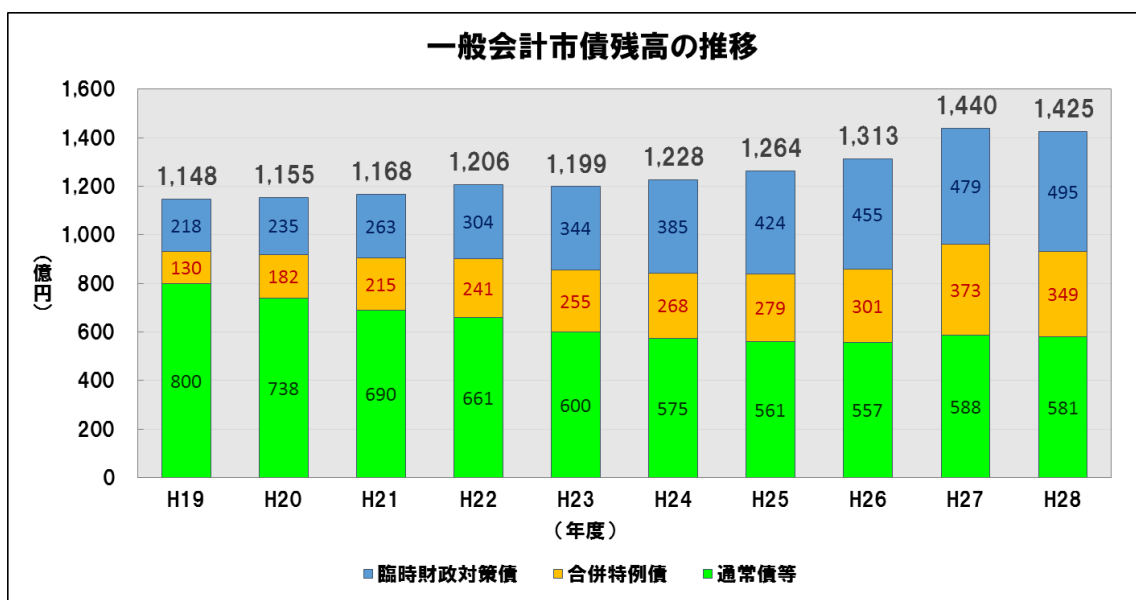
(2)借入金はどれくらいあるの(市債の状況)

①市債残高の状況

久留米市は、建設事業の財源としてお金を借りるときに市債を発行します。

平成28年度末の一般会計における市債残高(借入金残高)は、約1,425億円です。

道路の整備や学校の改築、久留米シティプラザや宮ノ陣クリーンセンターの建設など、国の経済対策による有利な補助金や市債などを活用して市民生活に密着した社会資本への投資を進めたことや臨時財政対策債*の増加のため、市債残高は増加傾向にありましたが、平成28年度は繰上償還の実施などにより、一般会計の市債残高は前年度に比べまして、約15億円減少しました。



※臨時財政対策債とは

国が地方自治体に配分する地方交付税の財源が不足するため、地方自治体が自ら不足する地方交付税の代わりに、地方債(市債)を発行して財源を調達するものです。

なお、借り入れた臨時財政対策債の元利償還金(返済額)は、その全額が、後年度の地方交付税の算定において毎年度措置されています。

市債は、原則、建設事業関係の経費に充てるときにしか発行できないと法律で決められているっば。

だから収入が不足する(赤字になる)からといって、むやみにお金を借りることは出来ないんだよ。



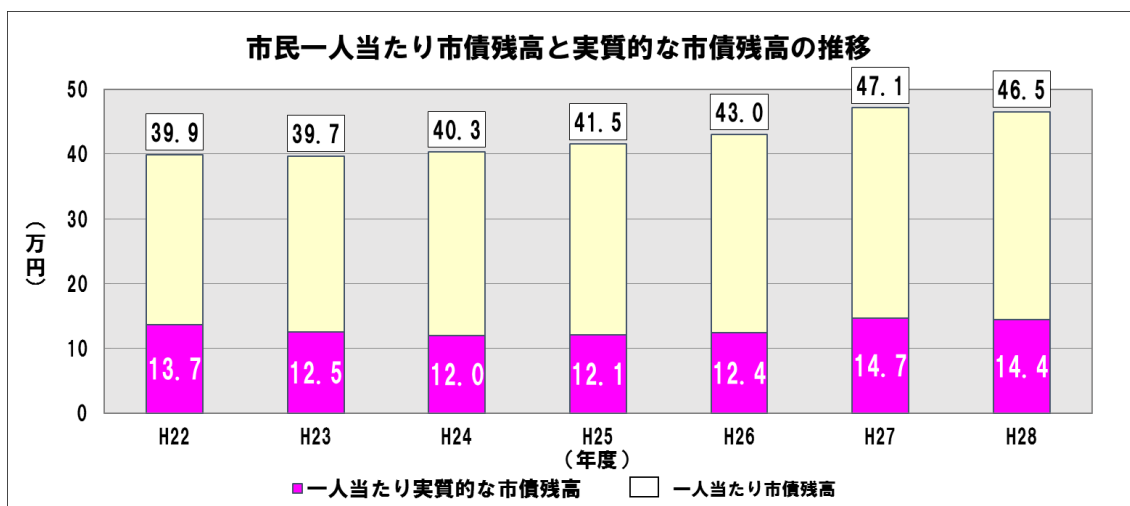
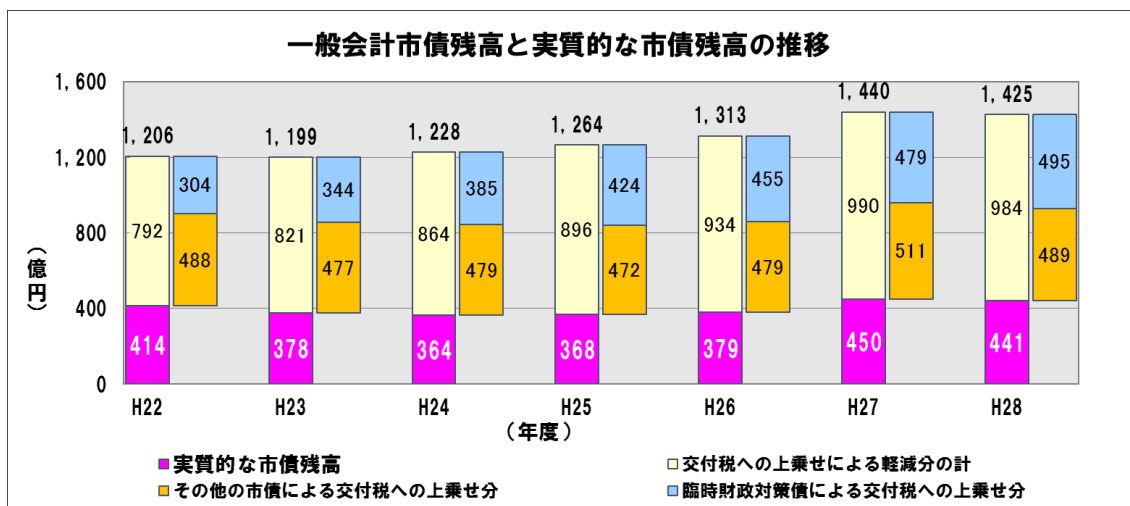
②実質的な市債残高の状況

平成28年度末の一般会計における市債残高1,425億円を、単純に人口で割った市民一人当たりの残高は約46.5万円になります。

これらの市債残高の中には、返済額の一部が、国から交付される地方交付税の配分に上乗せされるため、市の負担が軽減されるものがあります。

その負担軽減分を除いた「実質的な市債残高」は約441億円で、市民一人当たりになると約14.4万円になります。

久留米市では、お金を借りるときには、なるべく地方交付税への上乗せがある有利な借り入れを行うよう努力しているため、「実質的な市債残高」が低く抑えられているという特徴があります。



でも借入れをしないで、建設事業をすることは出来ないの？

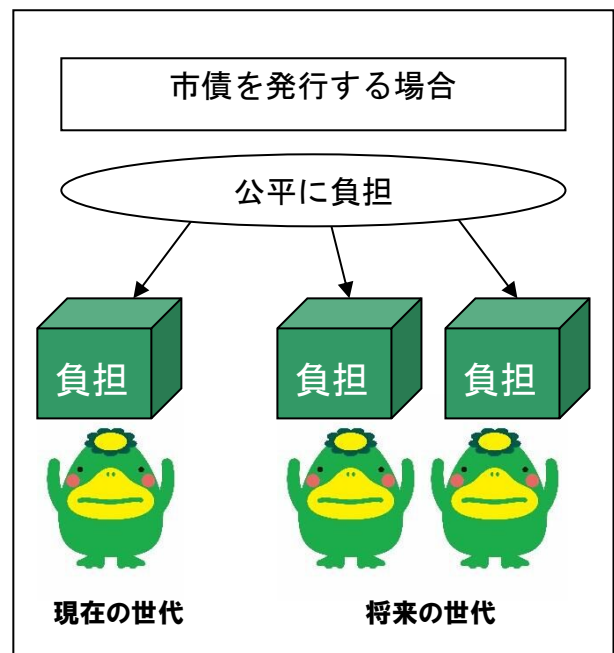
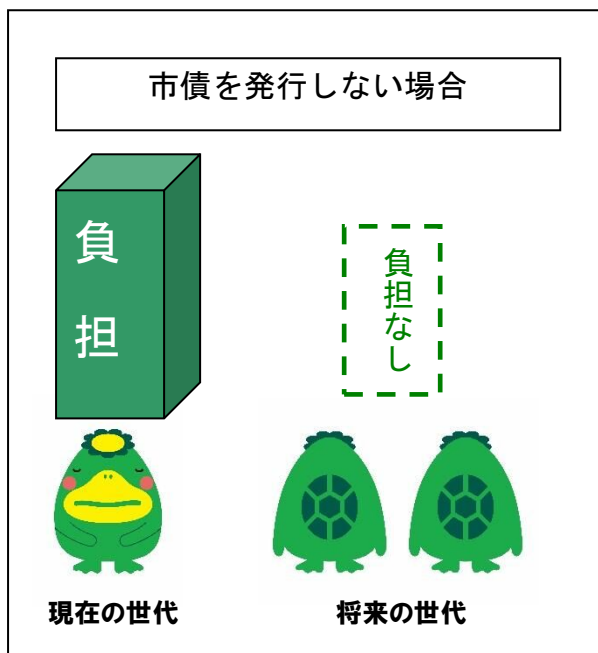


久留米市では、道路や公園、学校のような公共施設などを作るときには、その年度に収入した市税だけではなく、市債を発行してその資金を用意します。

作られた施設は、今後長い間利用でき、現在の世代だけではなく将来の世代にもそのサービスを提供することになります。

したがって、施設を作る資金の一部を市債で用意し、将来にわたってその返済を行うことで、現在の世代だけではなく将来の世代にも、施設を作る費用を公平に負担してもらっているのです。

また、施設を作るときには、なるべく国や県などからの補助金をもらえるよう努力し、市税や市債での負担がより一層少なくなるよう工夫をしています。



市債は借入れた条件に応じて、後年度に少しずつ公債費として返済していくっば。なので、つくった施設を将来利用する世代にも、公債費としての負担をお願いしていることになるんだよ。

